

令和6年度 生態系保全活動 研修会

令和6年6月18日(火)、高梁グリーンパーク(高梁市)において、「令和6年度生態系保全活動研修会」が岡山県内水面漁業協同連合会の主催で開催されました。当日は、県内の内水面漁業協同組合の関係者ほか、約60名の方が参加されました。

研修会では、アユ資源を増やす2つの取組について、報告を行いました。

1つ目の「岡山県におけるアユ資源の回復に向けた資源の減少要因の検討と産卵場造成の取組」では、3大河川の下流域で漁協が中心になって行った産卵場造成について報告しました。アユは浮石状態(川底の石が埋没していない状態)の付着物の少ない小石に産卵しますが、土砂の堆積等によって小石の隙間が埋まり、良好な産卵場が減少していると言われていました。人の手で産卵環境を整備することで、良好な産卵場所が広がり、アユのふ化仔魚の増加に繋がることを期待しています。

2つ目の「岡山県水産研究所における冷水病に強いアユの生産について」では、河川に遡上してきた天然遡上魚を春に捕獲し、親魚に養成して種苗生産することについて紹介しました。冷水病に強い海産系アユを親魚に用いることで、冷水病被害の軽減が期待されますが、当所では地下水等がないため、水道水を用いて濾過循環方式で親魚の飼育を行っています。

また、種苗の放流スケジュール(5月上旬に体重10g サイズまで成長させる)に間に合わせるため、早期に採卵を行い飼育を開始することが必要となることから、アユの早期産卵を促すための電照による日長処理等についても紹介しました。

アユは、内水面漁業において重要な魚種ですが、全国的な状況と同様に、本県においても資源が減少しています。その原因としては、カワウやブラックバス等による食害、冷水病等のアユの疾病、生息環境の悪化などが考えられています。

当所は、引き続き、これらの問題を解決するため、アユ資源を増やす取組を行っていく予定ですので、関係する皆様には、引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(海面・内水面増殖研究室 増成)



図 研修会の風景